

NEWS LETTER Vol.1



日本初! 脊髄損傷者による脊髄損傷者のための最新リハビリセミナー開催!

新居への引越し当日に交通事故で脊髄を損傷、一生歩けないと宣告を受けた木戸俊介さん。

奥様と二人三脚で、「再び歩く」という希望にかけ海外でリハビリを行うことを決意、クラウドファンディングを実施したところ支援者500人超え・支援金500万円超えと大反響!

そこで急遽、全ての当事者と家族にとって有益なリハビリ情報を公平な視点で発信するプロジェクトの立ち上げへと舵を切り、4月1日に第一回イベントを主宰することに。「僕がこんなに前向きに生きているのは、むしろ歩けないから」と言い切る木戸さんに詳しいお話をお聞きしました。



木戸 俊介 さん

2015年4月4日、交通事故により受傷。胸椎12番、完全麻痺受傷後2か月間を急性期病院、6か月間をリハビリ病院でリハビリを行う。退院後、オーストラリアで半年間リハビリを継続、昨年11月に帰国し、現在は自宅でのリハビリと、筑波大学附属病院にてリハビリを行っている。当事者の視点で「再び歩く」ための情報を発信する「Re:Walk Project(リウォークプロジェクト)」を運営。

<http://rwpj.jp>



● イベントのみどころは?

「もう1度歩きたい」という希望を持つ当事者や家族に「リハビリの選択肢を広げてもらうこと」を目的に、公の場で同席することのない病院、民間リハビリ施設、民間企業が一堂に会し、異なる専門家の最新ノウハウをワンストップで提供します。トークセッションも予定しており、どういった議論が生まれるのか私たちも楽しみです。また、日本では情報を得づらい海外の最新リハビリ紹介として、オーストラリアの民間施設のトレーナーが登場する点も見どころです。

● 当事者が考える、「歩くためのトレーニング(リハビリ)」の意義は?

「歩こうとした人みんなが歩けるわけではない」という前提で、大きく2つの意義があると考えています。1つ目は、**身体面への影響**です。歩かないことによる体力減退や二次障害予防および健康維持増進は、再生医療を念頭に置いた準備としても重要です。個人的には、脚は確実に動き出していますし殿筋にも運動の回復が出ています。歩こうしなければ絶対に得られない成果で、これからもっと出していけると考えています。2つ目は、**この点が最も大きいと思いますが、精神面への影響**です。「歩こうとする」時点で「前を向いている」ことになります。厳しい環境に挫折しつつも壁を一つひとつクリアしていくことはまさに「自己実現」であり、人として生きる大きな意義であると考えています。さらに、**脊髄損傷者は生活障壁を恐れるために内向的になりがちですが、「歩こう」とすると他の人のリハビリが気になったり仲間が欲しくなったりして、人や社会との関わりが生まれます。**そして、成果を自分以外に喜んでくれる人がいるとうれしくてたまらなくなり、やみつきになります。そんな風に、精神的な好循環を生む可能性があると思います。

精神面の影響を考えると、ぜひ僕を見てほしい。「僕がこんなに前向きに生きているのは、むしろ歩けないから」だと思います。

● 当事者から見たオーストラリアと日本の違いは?

1つ目は、**当事者の「リハビリ」の捉え方が決定的に違う点**。日本では、「健常者に迷惑がかからないようにリハビリをしなければならぬ」というような閉塞的でマイナスな雰囲気があるなど。オーストラリアでは自分を卑下するようなムードはほとんど感じず、バイクに乗りたいたいから上半身だけでドリフトできる体力をつけたい!とか、世界中を旅したい!とか自分の人生を輝かせるためにリハビリを行っているように感じました。2つ目は、「**心のバリア**」という**社会的な側面**。主観的な印象ですが、**世界をわけないと席やスペースを譲れない心のバリア**が、日本にはあるような気がします。例えば、日本の百貨店でよく見る「優先エレベーター」にオーストラリアで出会ったことはありません。エレベーターはどれも優先だからです!

● 当事者や家族にメッセージを。

障害を持って生きるのは苦しく厳しいことですが、**過去を振り返らず、先を見すぎず、「今、自分ができることに全力で取り組む」というのが、僕なりの生き方**です。そうすると自然と周りが応援してくれて、以前では想像もできなかったような前向きな人生になっていくと思います。ぜひ、苦しい時に1歩下がっていいから、調子の良い時に1.5歩進んでやる!というくらいの気持ちで。考え次第で、必ず状況は良くなります。

● マスコミへひとこと。

僕がRe:Walk Projectを始めたキッカケは、自分たちが情報の少なさに苦しんだためです。入院中、再生治療や歩くためのリハビリ情報を求めて家族が奔走してくれましたが、満足には集まりませんでした。「歩くリハビリが正しく、歩かないリハビリが正しくない」という意味ではなく、**選択肢として「歩くためのトレーニング」があると知られていないのが問題**だと思います。少しでも「歩きたい人」に歩くためのトレーニングを知ってもらうために、お力添えをよろしくお願いします。

⇒ イベント概要は裏面をご覧ください!

J-Workout株式会社が創設10周年を迎えました!

- 代表 伊佐 拓哲よりご挨拶 -

脊髄損傷者の当事者である私がなんの縛りもなく自由に気のすむまでトレーニングできる環境を求めて渡米し、帰国から10年がたちました。それは同時にJ-Workout株式会社の10年の歩みでもあります。たった10畳ほどの厚木の会議室から始まった当社も今では、400名近いクライアント様を受け入れ、東京・大阪に2店舗を構え、30人を超えるスタッフを採用するまでに成長しました。当社の強みは、例え重度の方であろうとも、全身のトレーニングをリハビリという医療保険制度に縛られず望みだけご提供できる点です。しかしながら誰も挑戦したことのないこの環境で安全かつ積極的なトレーニングを提供していくには、高度な知識と技術を身につけていなければなりません。

最近では医療機関や研究機関からの興味関心を集め、研究協力、ロボットスーツや再生医療とのコラボ、日本発の脊髄損傷者ニューロリハ開発協力など、クライアント様の回復に直結するようなわくわくする可能性のあるお話がどんどん増えてきています。一方で課題は、少しでも多くのトレーナーを輩出し、一人でも多くの方にトレーニングをご提供していくことです。将来的には店舗展開を進めると共に、トレーニング効果を高められるような在宅ケアサービス展開やトレーニング製品の開発や販売にも力を入れていきたいと考えています。

“全ての脊髄損傷者に一生かけて向かい合い一人でも多くの脊髄損傷者を歩かせる”というミッションのもと、脊髄損傷の方々の1つでも多くの笑顔を引き出せる企業であり続けるため、次の10年も邁進していく所存です。



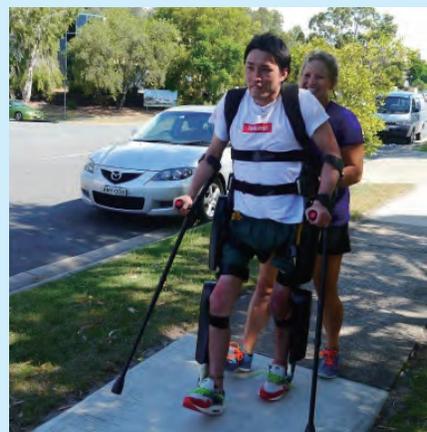
EVENT INFO

日本初! 脊髄損傷者による脊髄損傷者のための最新リハビリセミナー開催!

Re:Walk (リ:ウォーク)

- 【日 時】 2017年4月1日(土) 14:30-16:30
- 【場 所】 ゲートシティ大崎 (JR大崎駅徒歩1分)
- 【対象 / 料金】 興味のある方全員 (主に脊髄損傷者とその家族) / 無料
- 【席 数】 パイプ椅子160席+車いす席
- 【登壇者、テーマ】 神奈川リハビリテーション病院 山上大亮医師「脊髄損傷と排泄障がい」
筑波大附属病院 清水如代医師「筑波大学附属病院での脊髄損傷治療の実際 (HALなど)」
J-Workout株式会社 CEO谷野雅紀氏「J-Workoutのリハビリ」
株式会社TESS 代表取締役鈴木堅之氏「COGYのリハビリ」
Making Strides Director Genny Kroll-Rosen「Making Stridesのリハビリ」
- 【後 援】 グリーンファンディング

<http://u0u0.net/Ctej>



脊髄損傷者による歩行披露イベント

KNOW NO LIMIT #11

「KNOW NO LIMIT(限界はない)」をスローガンに、2007年から始まった当イベントが今年で11回目。二度と歩くことはできないと宣告されながらも努力を続け、歩行機能を取り戻した脊髄損傷者が歩行を披露! 医療費削減を理由に十分なリハビリテーションを受けられない現状に対して、脊髄損傷者の社会復帰にどれほど長期的なリハビリテーションが必要であるかを強く訴えます。

- 【日 時】 2017年11月19日(日) 10:00-17:00
- 【場 所】 東京国際交流館 〒135-8630 東京都江東区青海2-2-1 プラザ平成
- 【席 数】 500名
- 【主 催】 社団法人 国際せきずい損傷リハビリテーション協会 (Re-SCI)
- 【協 力】 J-Workout株式会社

<http://knownolimit.businesscatalyst.com>



<お問い合わせ先>

ジェイ・ワークアウト株式会社 PR担当 鹿島みき子(株式会社memento内) TEL: 03-5980-7295 / 090-3915-1453

MAIL: m.kajima@memento-pr.co.jp